

家に賜ひ、廿四年九月靖國神社に合祀せられた。その遺稿に茂枝雜抄七卷がある。

アサノヤシユウタイ 淺野屋秋臺 通稱彦六、諱は端。金澤の町人で壘製造を業とし、晩年町會所の吏となつた。秋臺は其の號で、別に戴笠道人・半僧道人・半醉老人・阮蓑野王・端王蓑・海石老人・青蓑道人・恬處道人・息齋・半兼老人・半禪居士・阮鎌人・遠初道人・鐵華居士・阮蓑鎌聖・周臺等の號がある。秋臺初め松花堂の書法を學び、後蘇東坡の風を慕うて堂奥に達した。傍ら篆刻に巧みで秋臺印譜を著し、茶事に堪能で啓沃軒隨筆を遺し、詩を作り戯書を描いた。文化十二年十月六日歿。法諡釋無著。

アサノヤジロベエ 淺野屋次郎兵衛 諱初以來家柄町人の一人であつた。初代次郎兵衛は元和五年初めて銀座を命ぜられ、寛永十三年之を辭して、十五年に病死した。二代次郎兵衛の時、横山長知の歸參した際一年許宿舎を命ぜられ、藩からその賞として町役を免除せられた。

アサノヤソウエモン 淺野屋惣右衛門 先祖以來金澤土着の町人で、上杉謙信が上洛の際止宿し、信國の小脇差と織物の夜着とを贈られたといふ。越登賀三州志は之を天正五年九月のこととし、金澤古蹟志は永祿三年五月のことかとする。

アサノヤホクシユウ 淺野屋北州 金澤の俳人。梅雪庵と號した。藩末に近く町會所に仕出して居た。

アサノヤリンバ 淺野屋林坡 金澤の俳人。堤町に住し酒造を業とした。幼名林太郎、後新助。淺曉庵を齋いだといふが明らかでない。

い。明治二年十月十三日六十歳で歿した。

アサノユキナガ 淺野幸長 文祿四年豊臣秀次が高野山に蟄居を命ぜられた後、その居館から淺野左京大夫幸長の名で秀次に懇志を通じて居た判書が発見せられ、秀吉は之を成敗することに決した。しかしこれは幸長に仕へて退けられた右筆磯谷が、石田三成に扶持せられてゐて、曾ての怨を晴す爲に謀書をしたものであつたから、前出利家は其の由を秀吉に勸解して幸長を預り、六月能登の津向に居館せしめた。後慶長元年七月廿二日幸長の罪赦され、次いで高麗に渡り、二年蔚山の嬰城に勇名を顯した。

アサノヨウスイ 淺野用水 淺野川の分水である。改作所舊記に、元祿十一年三月淺野村・淺野中島村等諸村肝煎の連名で、『用水淺野川小橋の下より取上、右用水御指町並地子町家有之處、年々家屋を仕出し、江せばく成、水つかへ迷惑仕。先年は幅九尺餘之處、右御指町並御地子町之間は、漸々二三尺程に濘成云々。』と申立てた爲、水道の幅を擴張したことがあり、註に、上下二筋共幅切廣げ候由田井之留帳に見えりとあつて、此の用水は水車の方と中嶋町の方とに二筋あつたのである。

アサヒ 朝日 能美郡板津郷に屬する部落。もとの位置よりも南方に在つたが、手取川の汎濫によつて向川原と接續の地に移り、明治九年向川原を併合して共に朝日と稱することになつた。

アサヒ 朝日 河北郡五ヶ庄に屬する部落。

アサヒイン 上日院 羽咋郡氣多神社の吉

書初に神前で讀上げる文中に、上日院司とある。鹿島郡上日庄内に一宮領があつたのであらう。

アサヒゴウ 朝日郷 河北郡に在つたといふ。津田鳳卿の説に、五ヶ庄は朝日・田近二郷を併せたものであるとし、又朝日郷は五ヶ庄の東部で、東は東原脇原・松根・横根、西は朝日、北は朝日畑、南は朝日牧各村の間であるといつてゐる。しかし朝日郷の名は田近郷と共に確たる文献に所見がない。

アサヒゴウ 上日郷 能登郡の古郷名。朝日郷を別つて上日・下日としたのであるとの説に従へば、當に加無郡阿佐比と訓むべきであるが、和名抄には阿佐比と訓み、荒木田久老も之を採つてゐる。後世淺井庄のあるのはその遺であらう。

アサヒサクラ 旭櫻 金澤兼六園龜甲橋畔に在る老櫻で、根元の總周圍六米七、地上直に六幹を出し、各幹の胸高周圍二米内外あつたが、近時一部は既に枯死した。白山櫻の一種である。

アサヒシヤ 朝日社 鹿島郡淺井に鎮座する。上日郷と交渉のあるものであらう。

アサヒシヨウ 上日庄 鹿島郡に在つた。和名鈔所載能登郡上日郷の地である。承久三年注進の能登國田數目録鹿島郡に、『上日莊、參拾町、久安二年立券狀』とあり、文治二年に能登郡・馬庭一村が莊の加納となつて居る。建久二年には既に上日本莊・上日新莊に分かれ、當時から應永頃までも後白河院長講堂領であつたが、康正二年の引付には、『一貫九百五十文、三寶院御門跡領、能州上日新莊段錢』となつて居る。

アサヒノホラ 朝日洞 白山御前岳の頂邊に在つて、巖石の堆を成すものをいふ。一名胎内潛。旭日の登る時直に之を射すが故にその名を得たといふが、今は洞窟ではない。土人は元祿九年八月洞中の硫黄自ら燒け、震動五六日にして遂に劈開したのであると傳へる。

アサヒバタ 朝日畑 河北郡井上庄に屬する部落。

アサヒマキ 朝日牧 河北郡五ヶ庄に屬する部落で、舊名を牧というた。明治に至り小坂庄にも同名部落がある爲今の名に改めたのである。

アサヒヤマジヨウ 朝日山城 河北郡朝日の部落より一軒餘北方、同村琴坂等に至る路傍にあつた。天正十二年前田利家、佐々成政の隠謀あるを知り、八月廿二日村井長頼に命じて堡を築かせ、高島九藏・原田又右衛門を裨將として之を鎮せしめた。

アサヒヤマノタカヒ 朝日山の戰 天正十二年八月廿八日越中富山に居た佐々成政は、その將佐々平左衛門・前野小兵衛二人をして加賀に侵入し、松根・横根方面から、利家の將村井長頼の鎮する朝日山を襲はしめた。時に朝日山の嶺柵僅かに成り、士卒濫陣の準備をなす爲金澤に歸つた者が多かつたが、偶阿波賀五郎八・江見藤十郎が長頼を訪ふ爲こゝに來て居たから、長頼は二人に託して越中軍の出動したことを金澤に告げしめた。利家之を聞いて、直に不破彦三直光・種村三郎四郎・片山内膳延高・岡島帶刀一吉等を率ゐて赴援したが、越中軍は大雨に會して急攻し得ざる間に、利家の後巻したことを聞いて退却